
応用言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

遊佐 昇 (ゆさ のぼる)

■ 授業の概要

応用言語学について、応用言語学研究科の担当教員がさまざまな角度からオムニバス形式で講ずる。

■ 到達目標

一般目標：自らの研究について、そのテーマ設定、方法等についての考えが整理できる。

個別目標：広い視野から応用言語学に関するさまざまな知見を得ると同時に、自らの研究構想へのヒントを得る。

■ 履修条件

必修科目

応用言語学研究科前期課程の 1 年生・前年度に特別な事情で履修しなかった 2 年生。

■ 評価基準・方法

各回での課題の遂行、及び期末に課するレポート等を総合して評価する。

■ 教科書

各講師が授業ごとに必要な資料を配布する。

■ 参考書

授業時に必要に応じて指示する。

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業内容

04/09 授業の説明。敦煌学について：遊佐昇
04/16 機能主義的言語研究(1)：津留崎毅
04/23 機能主義的言語研究(2)：津留崎毅
04/30 社会言語学(1)：嶋田珠巳
05/07 社会言語学(2)：嶋田珠巳
05/14 自然言語処理研究とその応用について(1)濱田彰
05/21 自然言語処理研究とその応用について(1)濱田彰
05/28 現代中国の文学(1)：河村昌子
06/04 現代中国の文学(2)：河村昌子
06/11 日本人と日本語(1)：片桐史尚
06/18 日本人と日本語(2)：片桐史尚
06/25 言葉の使用と発話理解(1)：荻原稚佳子
07/02 言葉の使用と発話理解(2)：荻原稚佳子
07/09 異文化間コミュニケーション研究の意義と主な研究領域：原和也
07/16 異文化間コミュニケーション論の調査方法の一例－質問紙法の基礎：原和也
09/17 ポストコロナルとしての言語問題(1)：中川仁
09/24 ポストコロナルとしての言語問題(2)：中川仁
10/01 日本語教育にいかす第二言語習得論(1)：木山三佳
10/08 日本語教育にいかす第二言語習得論(2)：木山三佳
10/15 CEFR から学ぶ英語教育(1)：高田智子
10/22 CEFR から学ぶ英語教育(2)：高田智子
10/29 音声学の研究とその応用について(1)：熊谷学而
11/05 音声学の研究とその応用について(2)：熊谷学而
11/12 文学作品を言語学的に分析する(1)：菊池翔太
11/19 文学作品を言語学的に分析する(2)：菊池翔太
11/26 言葉の意味・用法の変遷(1)：佐々木文彦
12/03 言葉の意味・用法の変遷(2)：佐々木文彦
12/10 中国近代教育史と日本(1)：小川唯
12/17 中国近代教育史と日本(2)：小川唯
01/14 取りまとめ：遊佐昇

事前学修

各回の授業内容を確認して、その概要を調べておく。

事後学修

各講師の講義内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。

英語教育教材特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

高田 智子 (たかだ ともこ)

■ 授業の概要

日本の中・高等学校の英語教育において、現実の言語使用場面に近いコンテキストを教室に設定し、生徒が実際にコミュニケーションを行う機会を豊かに与えることが求められている。その鍵になるのが、形式よりも意味内容を重視するタスクである。まず教科書および教科書に引用されている文献を通して、タスクの理論的背景を理解する。次に、理論に照らして中・高等学校の検定教科書の言語活動や海外のコースブックのタスクを分析し、研究環境が許せばそれらのタスクを実際に行って学習者言語を分析し、インタラクション、アウトプットを誘発するタスクの条件を考察する。その上で、中・高等学校の生徒を対象としたタスクを開発・検討する。

■ 到達目標

一般目標：タスクの理論的背景を理解し、その知識を活用して日本の中・高等学校の英語の授業をコミュニケーションの場面とするための教材を開発する。
個別目標：タスクの定義、種類、難易度、指導手順、評価方法について理解する。
理論に照らして既存のタスクを分析する。
タスクの定義にかなない、かつ日本の中・高等学校の英語の授業で実施可能なタスクを作成する。

■ 履修条件

日本における学校英語教育に興味・関心があること。

■ 評価基準・方法

課題(タスク分析・タスク開発)の結果をもとに、総合的に判断する。

■ 教科書

Nunan, D. (2004). Task-based language teaching. Cambridge University Press.
文部科学省『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編』開隆堂
文部科学省『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 外国語編・英語編』開隆堂

■ 参考書

Council of Europe. (2001). Common European framework of reference for languages. Cambridge University Press.
Ellis, R. (2003). Task-based language learning and teaching. Oxford University Press.
Harmer, J. (2015). The practice of English language teaching 5th edition. Longman.
投野由紀夫 [編] (2013)『学習到達度指標 CEFR-J ガイドブック』大修館
投野由紀夫 [編] (2020 予定)『CEFR-J リソースブック』大修館
松村昌紀(2012)『タスクを活用した英語授業のデザイン』大修館

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：Defining task 事前学修 1.0hr：教科書 Introduction を読む。 事後学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。	16 回	授業内容：Focused versus unfocused tasks 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
2 回	授業内容：Communicative language teaching 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	17 回	授業内容：Consciousness raising tasks 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
3 回	授業内容：What do you see the role of grammar in the CLT curriculum? 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	18 回	授業内容：Discussion: Analyze learner language. 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
4 回	授業内容：A task framework 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	19 回	授業内容：Focus on form in the communicative classroom 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
5 回	授業内容：Discussion: How are task, activity and exercise types combined? 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	20 回	授業内容：Discussion: Explore the place of grammar in a language lesson. 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を踏まえ、必要であれば分析を修正する。
6 回	授業内容：Developing units of work 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	21 回	授業内容：Grading input 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
7 回	授業内容：Seven principles for task-based language teaching 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	22 回	授業内容：Learner factors 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
8 回	授業内容：Discussion: Evaluate the materials you are familiar with in terms of the seven principles. 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	23 回	授業内容：Procedural factors 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
9 回	授業内容：Task components 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	24 回	授業内容：Key concepts in assessment 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
10 回	授業内容：Task types 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	25 回	授業内容：Criteria for assessing learner performance 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。
11 回	授業内容：Discussion: Review a textbook you are familiar with and identify strategies. 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	26 回	授業内容：Project: Designing tasks (1) 事前学修 2.0hr：タスクを作成する。 事後学修 1.0hr：フィードバックをもとにタスクを修正する。
12 回	授業内容：Teacher and learner roles 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	27 回	授業内容：Project: Designing tasks (2) 事前学修 2.0hr：タスクを作成する。 事後学修 1.0hr：フィードバックをもとにタスクを修正する。
13 回	授業内容：Input hypothesis and output hypothesis 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	28 回	授業内容：Project: Designing tasks (3) 事前学修 2.0hr：タスクを作成する。 事後学修 1.0hr：フィードバックをもとにタスクを修正する。

14 回	授業内容：Task difficulty 事前学修 2.0hr：教科書の該当箇所を読み、要旨を書く。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	29 回	授業内容：Project: Designing tasks (4) 事前学修 2.0hr：タスクを作成する。 事後学修 1.0hr：フィードバックをもとにタスクを修正する。
15 回	授業内容：Discussion: What factors contribute most to task difficulty? 事前学修 2.0hr：ディスカッションの準備をする。 事後学修 1.0hr：授業で検討した内容を整理し、関連文献を読んで要旨をまとめる。	30 回	授業内容：Presentation 事前学修 2.0hr：発表の準備をする。 事後学修 1.0hr：通年の授業を振り返る。

言語教育評価特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

高田 智子 (たかだ ともこ)

■ 授業の概要

評価は指導と表裏一体であるという考え方に基いて言語テスト作成の原則を理解し、それを実践に応用できる力を養う。既存の言語テストを妥当性、信頼性、実用性、波及効果の観点から議論し、目的に合ったテストを作成するために解決すべき問題を考える。目標に準拠した評価を行なうテストとその評価基準を作成し、検討する。

■ 到達目標

- 一般目標：言語テスト作成の原則を理解し、実践に応用することができる。
目標に準拠した評価を行なうテストとその評価基準を作成することができる。
- 個別目標：テストの妥当性、信頼性、実用性、波及効果について理解する。
既存のテストを妥当性、信頼性、実用性、波及効果の観点から分析する。
目標に準拠した評価を行なうテストの項目細目一覧を書く。
項目細目一覧に基づき、テストおよび評価基準を作成する。

■ 履修条件

特になし。使用教科書は『英語のテストはこう作る』であるが、原題は Testing for language teachers であり、英語テストに特化せず広く言語テストを扱う。

■ 評価基準・方法

授業への貢献 50%
課題 50%

■ 教科書

アーサー・ヒューズ著 静哲人 訳(2003)『英語のテストはこう作る』研究社

■ 参考書

Hughes, A. (2003). Testing for language teachers. Cambridge University Press.
橋本重治(2002)『統・到達度評価の研究』図書文化
ダイアン・ハート著 田中耕治 監訳(2011)『パフォーマンス評価入門』ミネルヴァ書房

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：指導とテスト 事前学修 0.5hr：教科書の序章を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	16 回	授業内容：ライティングのテスト(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
2 回	授業内容：さまざまなテストとテストング(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	17 回	授業内容：ライティングのテスト(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。
3 回	授業内容：さまざまなテストとテストング(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。	18 回	授業内容：口頭能力のテスト 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
4 回	授業内容：妥当性(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	19 回	授業内容：口頭能力のテスト作成 事前学修 2.0hr：話すこと(発表またはやり取り)のテストと模範解答を作成する。 事後学修 1.0hr：自作のテストを修正する。
5 回	授業内容：妥当性(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。	20 回	授業内容：評価基準の作成 事前学修 2.0hr：自作のテストの評価基準を作成する。 事後学修 1.0hr：自作の評価基準を修正する。
6 回	授業内容：信頼性(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	21 回	授業内容：リーディングのテスト(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
7 回	授業内容：信頼性(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。	22 回	授業内容：リーディングのテスト(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。
8 回	授業内容：有益な波及効果(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	23 回	授業内容：リスニングのテスト(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
9 回	授業内容：有益な波及効果(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。	24 回	授業内容：リスニングのテスト(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。
10 回	授業内容：テスト開発の手順(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	25 回	授業内容：文法と語彙のテスト(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
11 回	授業内容：テスト開発の手順(演習) 事前学修 1.0hr：テストの項目細目一覧を書く。 事後学修 1.0hr：作成したテストの項目細目一覧を修正する。	26 回	授業内容：文法と語彙のテスト(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。
12 回	授業内容：項目細目一覧に基づくテスト作成 事前学修 2.0hr：項目細目一覧に基づきテストを作成する。 事後学修 1.0hr：自作のテストを修正する。	27 回	授業内容：全体的能力のテスト(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
13 回	授業内容：よく見られるテストテクニック(講義) 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。	28 回	授業内容：全体的能力のテスト(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。
14 回	授業内容：よく見られるテストテクニック(演習) 事前学修 1.0hr：章末の演習問題から1つ選び、ディスカッションの用意をする。 事後学修 1.0hr：ディスカッションの内容を総括し、ノートにまとめる。	29 回	授業内容：児童のためのテスト 事前学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。 事後学修 1.0hr：教科書の該当箇所を読む。
15 回	授業内容：前期のまとめ 事前学修 2.0hr：前期の復習をして疑問点を整理する。 事後学修 1.0hr：前期の学習を振り返る。	30 回	授業内容：後期のまとめ 事前学修 2.0hr：後期の復習をして疑問点を整理する。 事後学修 1.0hr：後期の学習を振り返る。

一般言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

嶋田 珠巳（しまだ たまみ）

■ 授業の概要

言語学の基礎的知識と考え方を養成する。その過程において、ひろく言語学および応用言語学分野で修士論文に取りかかるための、思考力、読解力、理解力、批判的考察、調査、発表をふくめた、「研究基礎力」を養成する。

■ 到達目標

一般目標：言語学の考え方と研究諸分野の知識を身につける。

個別目標：1. 基本となる概念について理解し、例をあげて説明することができる。

2. 教科書の記述と授業内容を手がかりに、関連した文献を見つけ、内容を検討することができる。

3. 修士論文にとりかかるための研究基礎力を養う。

■ 履修条件

主体的に取り組む気持ちのあること。基礎的な英語力のあること。

教科書にとどまらず、その他の文献に積極的にあたり、クラス全体で理解を深める気持ちのあること。

■ 評価基準・方法

評価基準：到達目標の 1 ～ 4 ができているか、あるいはその到達度。

方法：授業への取り組み 70%, 試験 30%。

■ 教科書

H.G.Widdowson (1996) Linguistics. Oxford University Press.

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

授業内容

言語学の基礎知識をテキストをとおしてひととおり解説する。とくに重要な概念をめぐってはさらに文献にあたり、理解および考察を深める。

言語の性質、言語学の諸分野、分析方法、その後、言語学の各論（音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論）とすすめていく。

より深い理解に積極的な議論は欠かせない。それぞれが日々自分の研究テーマに取り組むことも自ずと求められる。

事前学修

その日の授業内容について自分のやりかたで準備をしておく。

事後学修

必要な概念を整理する、議論をまとめるなど、各自、学修内容を自分の研究に役立てるために必要なことをする。

理論言語学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

津留崎 毅 (つるさき たけし)

■ 授業の概要

この特論では、20 世紀の中頃、アメリカ人の言語学者 Noam Chomsky によって創始され、21 世紀の現在でも代表的な理論言語学的研究の枠組みとして健在である「生成文法」に焦点を合わせる。Chomsky の言語理論を理解することは、理論言語学の基盤となる(もしくは基盤となった)考え方を理解することであり、本科目の目標に相応しいものである。Chomsky の言語理論を理解するためには、彼の多くの代表的著作を読むことが必要だが、この授業では「生成文法による革命的言語研究の開始を告げる記念碑的著作」とみなされることの多い古典的名著 *Aspects of the Theory of Syntax* を中心に取り上げる。

■ 到達目標

一般目標：理論言語学(特に生成文法)の概略を理解する。

個別目標：・生成文法の革新性を理解する。

・生成文法の標準的な分析の手法を理解する。

・生成文法の研究成果について正しく評価する。

■ 履修条件

日本語のみならず英語の文献も読めること。また(受講生の数にもよるが)担当者による講義形式ではなく、受講生による発表・報告を中心に授業を進めていく予定なので、「割り当てられた原著もしくは参考文献の一部をよく読み、その内容を自分なりに理解し、ハンドアウトなどを使いながら報告・解説すること」ができる(自信がある、あるいは覚悟がある)こと。

■ 評価基準・方法

原則として授業への貢献度 30 %、課題への取り組み状況 30 %、学年末試験 40 %とする。

■ 教科書

Chomsky, Noam. 1965. *Aspects of the theory of syntax*. MIT Press.

そのほか、必要な書籍や文献を入手してもらう(授業の中で指示)。

■ 参考書

必要に応じて、授業の中で紹介する。

■ 授業内容と授業外(事前・事後)の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：オリエンテーション(授業方針の説明等) 事前学修 2.0hr：授業概要、履修条件、使用テキストなどを確認し、第 1 回目の授業に備える 事後学修 2.0hr：授業の中で指示された文献を入手し、2 回目以降の授業に備える。	16 回	授業内容：後学期に向けてのオリエンテーション 事前学修 2.0hr：前学期の終了時に指定された文献を読んでおく 事後学修 2.0hr：授業を振り返り、次回以降の授業に備える。
2 回	授業内容：理論言語学の基礎(<i>Aspects of the Theory of Syntax</i> の紹介など) 事前学修 2.0hr：Aspects of the Theory of Syntax を手に取って目を通しておく(受講確定前なので、まだ購入せず図書館を活用する) 事後学修 2.0hr：授業を復習し、疑問点などをノートにまとめる	17 回	授業内容：理論言語学のトピック 1「ことばの仕組み一文構成の原理」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
3 回	授業内容：準備 1(カテゴリーとファンクションの区別など) 事前学修 2.0hr：指定された文献を読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる	18 回	授業内容：理論言語学のトピック 2「構文分析例」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
4 回	授業内容：準備 2(句構造と変形規則など) 事前学修 2.0hr：指定された文献を読んでおく 事後学修 2.0hr：授業を復習し、疑問点などをノートにまとめる	19 回	授業内容：理論言語学のトピック 3「文構造の外観 I」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
5 回	授業内容：準備 3(構造表示について) 事前学修 2.0hr：指定された文献を読んでおく 事後学修 2.0hr：授業を復習し、疑問点などをノートにまとめる	20 回	授業内容：理論言語学のトピック 4「文構造の外観 II」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
6 回	授業内容：受講生による発表・報告に向けて(モデルの提示) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	21 回	授業内容：理論言語学のトピック 5「文構造の外観 III」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
7 回	授業内容：受講生による発表・報告 1(チョムスキーについて) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	22 回	授業内容：理論言語学のトピック 6「一般 A-over-A 原則」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
8 回	授業内容：受講生による発表・報告 2(チョムスキー理論の革新性 1) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	23 回	授業内容：理論言語学のトピック 7「一般原理と照応関係」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
9 回	授業内容：受講生による発表・報告 3(チョムスキー理論の革新性 2) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	24 回	授業内容：理論言語学のトピック 8「Wh 句移動と一般制約」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
10 回	授業内容：受講生による発表・報告 4(Aspects を読む 1) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	25 回	授業内容：理論言語学のトピック 9「句構造分析の諸問題」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
11 回	授業内容：受講生による発表・報告 5(Aspects を読む 2) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	26 回	授業内容：理論言語学のトピック 10「目的語繰り上げなど」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
12 回	授業内容：受講生による発表・報告 7(脳科学と生成文法 1) 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	27 回	授業内容：理論言語学のトピック 11「That-trace 現象など」 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる

13 回	授業内容：受講生による発表・報告 7（脳科学と生成文法 2） 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。担当となった場合は、その発表の準備を進める。	28 回	授業内容：後学期の振り返り 事前学修 2.0hr：後学期に扱った文献を整理し、授業ノートを見ながら、後学期中心に復習する 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
14 回	授業内容：受講生による発表・報告 8（言語と自然法則） 事前学修 2.0hr：指定された文献・パートを読んでおく 事後学修 2.0hr：講義を復習し、疑問点などをノートにまとめる。	29 回	授業内容：年間の振り返り 事前学修 2.0hr：前学期を含め、この授業で扱った文献を整理し、授業ノートを見ながら復習する。 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、疑問点などをノートにまとめる
15 回	授業内容：前学期の振り返り 事前学修 2.0hr：前学期中に学んだ内容を整理しておく 事後学修 2.0hr：授業内容を振り返り、後学期の授業に備える。	30 回	授業内容：理解度確認のためのテスト実施等 事前学修 2.0hr：前回の「振り返り授業」を踏まえ、理解度確認テストに備える 事後学修 2.0hr：理解度確認テストの結果を踏まえて、総復習する。

異文化コミュニケーション特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

原 和也 (はら かずや)

■ 授業の概要

個人の世界観、価値観、思考様式といった内面的活動と、それらが外面化した異文化間でのコミュニケーション活動について研究をするためには、一般コミュニケーション論の代表的な研究領域、文化の概念、文化とコミュニケーションの関係、さらに調査方法について理解を深めておくことが前提条件となる。本講座では、前期は一般コミュニケーション論に対する理解を深め、主な調査方法のひとつである質問紙法の基礎を学ぶ。後期は、調査方法と応用分野について考察を深めていき、異文化間コミュニケーションに関する様々な現象を、認知面・情意面・行動面から調査、分析、説明できる能力を身に付ける。授業形式は、担当教員の講義、履修者の課題研究発表、そして、全員による討論で構成される。

■ 到達目標

一般目標：(1) 異文化間コミュニケーション論の基礎概念を習得し、モデルを用いて概念化や説明ができること
(2) 個々人の興味に基づいて、先行研究をレビューし、適切な調査方法を見出すことができるようになること
個別目標：修士論文の作成に必要な基礎知識、文献収集能力、研究方法を見出すこと

■ 履修条件

指定された課題を熟読し、常に問題意識を持ちながら、発表や討論に真摯な姿勢で取り組むこと

■ 評価基準・方法

- (1) ディスカッション・リーダー：40 %
- (2) 学期末レポート：50 %
- (3) オピニオン・ノート：10 %

■ 教科書

前期：末田清子・福田浩子 (2011) 『コミュニケーション学—その展望と視点—』(増補版) 松柏社。
後期：リーディング・パッケージ

■ 参考書

- (1) 石井敏・久米昭元(編著) (2013) 『異文化コミュニケーション事典』春風社。
- (2) 宮本総介・宇井美代子(編) (2014) 『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス社。

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：オリエンテーション、コミュニケーションとは何か、文化に対する視点の多様化 事前学修 1.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第1章& 4章) 事後学修 1.5hr：シラバスに記載された授業内容を確認し、年間の学習計画を立てる	16 回	授業内容：オリエンテーション 事前学修 2.0hr：前期に学習した基礎概念、諸理論の復習をする 事後学修 1.0hr：後期の学習計画を立てる
2 回	授業内容：異文化コミュニケーション研究の意義、歴史、主な研究領域 事前学修 1.5hr：事前に配布されたハンドアウトを熟読する 事後学修 1.0hr：ハンドアウトを復習し、知識を確実なものとする	17 回	授業内容：調査方法の全体像 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献①を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
3 回	授業内容：文化とコミュニケーションの相関関係 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する 事後学修 1.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	18 回	授業内容：質問紙法による調査方法(1)主な特徴、構成、質問の立て方 事前学修 2.0hr：事前に配布されるプリント教材を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
4 回	授業内容：コミュニケーション・モデルの構築 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する 事後学修 1.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	19 回	授業内容：質問紙法による調査方法(2)ワーディング、質問の配置、質問紙作成の全体像 事前学修 2.0hr：事前に配布されるプリント教材を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
5 回	授業内容：コミュニケーションとニーズ 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第2章) 事後学修 1.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	20 回	授業内容：質問紙法による調査方法(3)心理尺度の使用と統計学的検定：社会科学的 研究における測定の役割 事前学修 2.0hr：事前に配布されるプリント教材を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
6 回	授業内容：コミュニケーションの4つの視点、メタ理論 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第3章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	21 回	授業内容：質問紙法による調査方法(4)統計学的検定(仮説検定)、比較調査における 翻訳の等価性 事前学修 2.0hr：事前に配布されるプリント教材を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
7 回	授業内容：言語コミュニケーション：コミュニケーションにおける言語 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第5章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	22 回	授業内容：価値観、世界観、コンテキスト 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献②を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
8 回	授業内容：言語コミュニケーション：言語学の立場から 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第6章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	23 回	授業内容：対人コミュニケーション 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献③を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
9 回	授業内容：言語コミュニケーション：コミュニケーション学の立場から 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第7章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	24 回	授業内容：カルチャーショックと異文化適応 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献④を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
10 回	授業内容：言語と文化の相互作用 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第8章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	25 回	授業内容：ステレオタイプ形成のメカニズム 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献⑤を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
11 回	授業内容：コミュニケーションの場と背景：コンテキスト 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第9章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	26 回	授業内容：人種差別と偏見 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献⑥を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
12 回	授業内容：非言語コミュニケーション：非言語コミュニケーションの機能、非言語音声メッセージ 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第10&11章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	27 回	授業内容：多文化共生 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献⑦を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
13 回	授業内容：非言語コミュニケーション：非言語非音声メッセージ 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第12&13章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	28 回	授業内容：文化と認知、発達 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献⑧を熟読する 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む
14 回	授業内容：異文化間トレーニング 事前学修 2.0hr：指定された文献を熟読する(教科書第14章) 事後学修 2.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む	29 回	授業内容：異文化コミュニケーション論から見た英語学習・教育の問題 事前学修 2.0hr：リーディング・パッケージの文献⑨を熟読する 事後学修 3.0hr：ハンドアウトをもとに授業内容を復習し、指定された文献を読む

15 回	授業内容：前期の総まとめ 事前学修 1.5hr：配布されるハンドアウトを熟読する 事後学修 2.5hr：教科書をもとに、前期に配布した各種ハンドアウトの総復習をし、夏休みの研究計画を立てる	30 回	授業内容：受講生によるレポート発表、年間の総括 事前学修 2.0hr：レポート発表の準備 事後学修 2.0hr：受講生からのフィードバックをもとに、レポートの修正加筆を行う
---------	---	---------	---

第2言語習得特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

濱田 彰 (はまだ あきら)

■ 授業の概要

本講義では、学習者が母語の次に言語を学ぶ過程を科学的に解明しよとする第二言語習得研究について学ぶ。具体的には、第二言語の習得過程や、習得に影響を与える諸要因(年齢、心理的・認知的・社会的要因、母語、個人差)、および教授法を扱う。学習者の心の中に生じているプロセスの分析を試み、第二言語運用能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探り、その応用として教室における第二言語・外国語指導の在り方を検証する。

■ 到達目標

一般目標：1. 第二言語習得・外国語教育に関わる言説を批判的に分析できる。
2. 研究で得られた知見を教室や社会に応用し他者と共有できる。

個別目標：1. 第二言語の知識と技能の発達過程を理解する。
2. 第二言語習得の認知プロセスを理解する。
3. 第二言語習得理論を発展させる研究を立案できる。
4. 第二言語習得理論に基づいた外国語指導ができる。

■ 履修条件

・原著論文を理解できる十分な英語力があること。
・ノートパソコンを持参することが望ましい。

■ 評価基準・方法

・前学期レポート(30%)
・後学期レポート(30%)
・担当チャプターの発表(20%)
・リサーチプロポーザル(20%)

■ 教科書

Ellis, R. (2015). Understanding second language acquisition (2nd. ed.). Oxford University Press. (<https://is.gd/AfBWUR>)

■ 参考書

白井恭弘. (2008). 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 岩波書店. (<https://is.gd/5e0H7N>)

白井恭弘. (2012). 『英語教師のための第二言語習得論入門』 大修館書店. (<https://is.gd/hOQq2o>)

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：オリエンテーション 事前学修 1.0hr：教科書を入力し各章の概要を確認する 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	16 回	授業内容：統計ソフトRの設定 事前学修 1.0hr：統計ソフトRをインストールする 事後学修 3.0hr：統計ソフトRの使い方を調べる
2 回	授業内容：Second language acquisition research: An overview 事前学修 2.0hr：第1章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	17 回	授業内容：Correlation analysis in R 事前学修 2.0hr：相関分析の仕組みと手順を調べる 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
3 回	授業内容：Age and second language acquisition 事前学修 2.0hr：第2章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	18 回	授業内容：Planning associational research in SLA (psychological factor) 事前学修 2.0hr：心理的要因と第二言語習得に関する論文を読む 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
4 回	授業内容：Psychological factors and second language acquisition 事前学修 2.0hr：第3章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	19 回	授業内容：Planning associational research in SLA (strategic factor) 事前学修 2.0hr：学習方略と第二言語習得に関する論文を読む 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
5 回	授業内容：The development of a second language (explicit knowledge) 事前学修 2.0hr：第4章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	20 回	授業内容：Regression analysis in R 事前学修 2.0hr：回帰分析の仕組みと手順を調べる 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
6 回	授業内容：The development of a second language (implicit knowledge) 事前学修 2.0hr：第5章前半の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	21 回	授業内容：Analyzing associational data in SLA (psychological factor) 事前学修 2.0hr：心理的要因と第二言語習得に関する論文を復習する 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
7 回	授業内容：Variability in learner language 事前学修 2.0hr：第5章後半の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	22 回	授業内容：Analyzing associational data in SLA (strategic factor) 事前学修 2.0hr：学習方略と第二言語習得に関する論文を復習する 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
8 回	授業内容：The role of the first language 事前学修 2.0hr：第6章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	23 回	授業内容：Hypothesis testing in R 事前学修 2.0hr：仮説検定の仕組みと手順を調べる 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
9 回	授業内容：Input and interaction: The cognitive-interactionist perspective 事前学修 2.0hr：第7章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	24 回	授業内容：Planning causal research in SLA (explicit instruction) 事前学修 2.0hr：明示的指導と第二言語習得に関する論文を読む 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
10 回	授業内容：Cognitive aspects of second language acquisition 事前学修 2.0hr：第8章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	25 回	授業内容：Planning causal research in SLA (implicit instruction) 事前学修 2.0hr：暗示的指導と第二言語習得に関する論文を読む 事後学修 2.0hr：サンプルデータを分析し結果を考察する
11 回	授業内容：Social aspects of second language acquisition 事前学修 2.0hr：第9章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	26 回	授業内容：Literature review (associational research) 事前学修 2.0hr：興味関心に応じた先行研究を収集し要約する 事後学修 2.0hr：リサーチプロポーザルの準備をする
12 回	授業内容：The role of explicit instruction 事前学修 2.0hr：第10章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	27 回	授業内容：Literature review (causal research) 事前学修 2.0hr：興味関心に応じた先行研究を収集し要約する 事後学修 2.0hr：リサーチプロポーザルの準備をする
13 回	授業内容：The role of implicit instruction 事前学修 2.0hr：第11章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	28 回	授業内容：Research proposal (associational research) 事前学修 2.0hr：第二言語習得に関わる研究プロポーザルを作成する 事後学修 2.0hr：討議内容に基づきプロポーザルを修正する
14 回	授業内容：Understanding and applying second language acquisition 事前学修 2.0hr：第12章の内容を精読し疑問点をまとめる 事後学修 2.0hr：担当チャプターの発表準備をする	29 回	授業内容：Research proposal (causal research) 事前学修 2.0hr：第二言語習得に関わる研究プロポーザルを作成する 事後学修 2.0hr：討議内容に基づきプロポーザルを修正する
15 回	授業内容：前学期のまとめ 事前学修 1.0hr：レポートのための原著論文を入手する 事後学修 3.0hr：前学期レポートを作成する	30 回	授業内容：後学期のまとめ 事前学修 1.0hr：レポートのための原著論文を入手する 事後学修 3.0hr：後学期レポートを作成する

現代英文法特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

津留崎 毅 (つるさき たけし)

■ 授業の概要

この特論では、最新の英文法を概観し、その文法観に基礎を置く研究・分析の手法を学ぶことを目的とする。ここでいう「最新の英文法」とは、基本的に、Rodney Huddleston と Geoffrey K. Pullum が中心となって編纂した定評ある文法書 The Cambridge Grammar of the English Language (CGE と略、ケンブリッジ大学出版局 2002 年刊)の内容を指すものとする。今年度は、この文法書の Chapter 7 (Prepositions and preposition phrases)を中心的に取り上げる予定であるが、受講生のニーズ(状況)により、適宜調整する。

■ 到達目標

一般目標：伝統的な英文法を最新の英文法の立場から見直すことによって、新しい言語学の研究成果を知ることができる。文法、特に統語論を本格的に研究する際の基盤となる知識を身につけることができる。

個別目標：・ 理論的枠組み(生成文法)について学ぶ

・ 統語論における基礎概念(カテゴリー、ファンクション、構成素構造、階層構造等)を学ぶ

・ 前置詞に関する最新の分析を学ぶ

・ 英語教育への応用について考える

■ 履修条件

英語統語論についての基礎知識があることが望ましいが、参加者の状況を考慮し、必要であれば基礎的事項にも触れる。

■ 評価基準・方法

授業に対する貢献、課題の提出状況等を総合的に評価する。

■ 教科書

特定のテキストは使用しない。必要な資料・教材は、授業時に指示・配付する。

■ 参考書

Huddleston & Pullum 編著、The Cambridge Grammar of the English Language. 大学図書館、大学院生室図書館に所蔵されている。(Cambridge University Press)

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：Course introduction, etc. 事前学修 2.0hr：授業概要を読み、授業内容・授業方針を把握する。 事後学修 2.0hr：授業で紹介された参考図書や文献に目を通しておく。	16 回	授業内容：Introduction to the 2nd semester 事前学修 2.0hr：前学期の授業内容を、授業ノートを参考に総復習しておく。 事後学修 2.0hr：授業で紹介された参考図書や文献に目を通しておく。
2 回	授業内容：Preliminaries (1): Theoretical framework, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.18-20 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	17 回	授業内容：Chapter 7, (6): Idiomatic expressions 事前学修 2.0hr：CGE の pp.617-618 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
3 回	授業内容：Preliminaries (2): Basic concepts in syntax, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.20-21 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	18 回	授業内容：Chapter 7, (7): 'for the sake of ...,' etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.618-622 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
4 回	授業内容：Preliminaries (3): Syntactic categories, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.21-22 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	19 回	授業内容：Chapter 7, (8): Other types of expressions 事前学修 2.0hr：CGE の pp.623-625 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
5 回	授業内容：Syntactic overview (1): Sentence and clause, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.44-50 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	20 回	授業内容：Chapter 7, (9): Preposition stranding 事前学修 2.0hr：CGE の pp.626-630 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
6 回	授業内容：Syntactic overview (2): The verb, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.50-52 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	21 回	授業内容：Chapter 7, (10): Prepositions and complements (1) 事前学修 2.0hr：CGE の pp.631 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
7 回	授業内容：Syntactic overview (3): Adjective and adverb, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.57-59 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	22 回	授業内容：Chapter 7, (11): Prepositions and complements (2) 事前学修 2.0hr：CGE の pp.631 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
8 回	授業内容：Syntactic overview (4): Content clauses, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.62-64 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	23 回	授業内容：Chapter 7, (12): 'spoonful by spoonful,' etc. 事前学修 2.0hr：CGE の p.632 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
9 回	授業内容：Syntactic overview (5): Reported speech, etc. 事前学修 2.0hr：CGE の pp.64-65 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	24 回	授業内容：Chapter 7, (13): Preposing in PP structure 事前学修 2.0hr：CGE の pp.633-634 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
10 回	授業内容：Chapter 7 (1): The category of prepositions 事前学修 2.0hr：CGE の pp.598-602 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	25 回	授業内容：Chapter 7, (14): Complementation 事前学修 2.0hr：CGE の p.635-642 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
11 回	授業内容：Chapter 7 (2): Overview 事前学修 2.0hr：CGE の pp.603-605 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	26 回	授業内容：Chapter 7, (15): Modification 事前学修 2.0hr：CGE の p.643-645 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
12 回	授業内容：Chapter 7 (3): Prepositions vs adjectives 事前学修 2.0hr：CGE の pp.606-609 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	27 回	授業内容：Chapter 7, (16): Functions of PP 事前学修 2.0hr：CGE の p.646 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
13 回	授業内容：Chapter 7 (4): Prepositions vs verbs 事前学修 2.0hr：CGE の pp.610-611 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	28 回	授業内容：Chapter 7, (17): Prototypical prepositions 事前学修 2.0hr：CGE の pp.647-652 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
14 回	授業内容：Chapter 7 (5): Prepositions vs adverbs 事前学修 2.0hr：CGE の pp.612-616 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。	29 回	授業内容：Chapter 7, (18): Grammatical prepositions 事前学修 2.0hr：CGE の pp.653-654 を読んでおく。 事後学修 2.0hr：授業内容を復習し、担当者による課題に取り組む。
15 回	授業内容：Review of the 1st semester 事前学修 3.0hr：前学期の授業内容を振り返っておく。 事後学修 1.0hr：担当者による総復習を参考に、自分の弱点を把握、補強する。	30 回	授業内容：Review of the course, Q & A 事前学修 3.0hr：後学期の授業内容を振り返っておく。 事後学修 1.0hr：担当者による総復習を参考に、自分の弱点を把握、補強する。

日・英比較文学特論

開講学科等：応用博前 | 4 単位 | 開講期：通

菊地 翔太 (きくち しょうた)

■ 授業の概要

この授業では、英文学史上最高の劇作家と評されるウィリアム・シェイクスピア(1564-1616)の代表作の一つである『ハムレット』を精読する。今から約 400 年前に書かれた作品なので、語彙・文法等様々な点で現代の英語と異なる特徴を示している。そのため、作品を鑑賞する際には、複数の校訂本の注釈を比較参照することは言うまでもなく、辞書・文法書・シソーラス・コンコーダンス等のツールを積極的に使うことが肝要である。この授業では、このような作品読解と研究のために必要不可欠なツールに親しみながら、一文一文をじっくりと丁寧に読み解いていく。日本でのシェイクスピア作品の受容の歴史や翻訳の問題も同時に扱っていく。

■ 到達目標

一般目標：シェイクスピアが描く世界を当時の英語から読み取ることができる。

個別目標：・文学作品の研究のために必要なツールを巧みに用いて、シェイクスピアの英語を読むことができる。

・シェイクスピアの作品が日本でどのように受容されてきたか概観を説明できる。

・日本でこれまでになされてきた様々な翻訳を批評することができる。

■ 履修条件

シェイクスピアの時代の英語に関する予備知識は要求しないが、現代英語の高度な運用能力(CEFR B2 以上)を持っていることが求められる。

■ 評価基準・方法

授業貢献度・学期末レポート等を総合的に判断して評価する。

■ 教科書

Shakespeare, William. Hamlet. Edited by G. R. Hibbard. Oxford World's Classics. Oxford: Oxford University Press, 1994.

■ 参考書

授業で紹介する。

■ 授業内容と授業外（事前・事後）の学修及び学修目安時間

1 回	授業内容：イントロダクション(シェイクスピアについて) 事前学修 2.0hr：シェイクスピアについて調べる。 事後学修 2.0hr：『ハムレット』について調べる。	16 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
2 回	授業内容：初期近代英語入門(1)(語彙・文法について) 事前学修 2.0hr：事前に配布した資料を熟読する。 事後学修 3.0hr：現代英語との違いを考慮に入れながら、テキストを精読する。	17 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
3 回	授業内容：初期近代英語入門(2)(辞書やコンコーダンスの使い方について) 事前学修 2.0hr：現代英語との違いを考慮に入れながら、テキストを精読する。 事後学修 3.0hr：現代英語との違いを考慮に入れながら、テキストを精読する。	18 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
4 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	19 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
5 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	20 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
6 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	21 回	授業内容：翻訳の検討 事前学修 2.0hr：代表的な翻訳を二つ取り上げ、長所と短所をまとめる。 事後学修 2.0hr：授業中のディスカッションを踏まえ、指定した箇所を翻訳する。
7 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	22 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
8 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	23 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
9 回	授業内容：日本におけるシェイクスピアの受容 事前学修 2.0hr：日本におけるシェイクスピアの受容の歴史を調べる。 事後学修 2.0hr：代表的な翻訳者に関して調べる。	24 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
10 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	25 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
11 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	26 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。
12 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	27 回	授業内容：シェイクスピア作品に関する研究の紹介(1)(文学的アプローチ) 事前学修 2.0hr：配布した論文を熟読し、疑問点・問題点を整理する。 事後学修 2.0hr：関連する先行研究を探す。
13 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	28 回	授業内容：シェイクスピア作品に関する研究の紹介(2)(語学的アプローチ) 事前学修 2.0hr：配布した論文を熟読し、疑問点・問題点を整理する。 事後学修 2.0hr：関連する先行研究を探す。
14 回	授業内容：本文読解 事前学修 2.0hr：指定した箇所を精読する。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、作成した注釈と和訳を修正する。	29 回	授業内容：研究成果の報告 事前学修 2.0hr：作品について調べたことをまとめる。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、自分の意見をまとめる。
15 回	授業内容：前学期授業総括 事前学修 2.0hr：作品に関する疑問・問題点をまとめる。 事後学修 2.0hr：レポートのテーマを考える。	30 回	授業内容：授業総括 事前学修 2.0hr：研究したテーマについてレポートをまとめる。 事後学修 2.0hr：授業での議論を踏まえて、レポートを修正する。